

# 第1学年 国語科学習指導案

## 1. 単元名 本とともだちに なろう 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

### 2. 指導観

- 本学年の子どもたちは、本を読むのが好きで、図書室から本を借りるのを楽しみにしている。また、月に一度は、読書ボランティアによる読み聞かせによる読書を経験してきた。その結果、文字数の多い「物語」を好んで読む子どもや、絵本の絵を見て楽しんで読書する子どもが増えてきている。

子どもたちは、これまでに、「おむすびころりん」「大きなかぶ」で、リズム感ある繰り返しの言葉を味わいながら声を合わせて音読したり、登場人物の様子や気持ちを想像したりしながら、読むことの楽しさを味わってきた。また、「くじらぐも」では、動作化をしたり登場人物の気持ちを吹き出しに表したりして人物の心情を想像する学習にも取り組んできた。しかし、動作化には喜んで取り組むが、考えていることや思っていることを発表するときには口ごもってしまうなど、自分の言いたいことをはっきり話すことに関しては、個人差が大きい。

- 本単元は、主人公の「ぼく」が、自分と共に育ってきた犬「エルフ」を、いかに愛していたかを、回想の形をとって、一人称で語られている物語である。「ぼく」は、年をとったエルフを世話しながら、「ずうっと、大すきだよ。」と声をかけ続け、エルフの死後も「ぼく」の気持ちが変わらないことをエルフに伝えていく。

物語は、いわゆる起・承・転・結の四つの部分で構成され、時間的な順序がはっきりしており、話のあらすじをつかみやすい。また、この期の子どもたちは、生き物に対して強い興味・関心をもっており、生き物を飼ったり、病気やけがなどの看護や手当をしたりした経験をもつ子どももいる。そのため、「ぼく」に同化しながら物語を読み、「ぼく」の気持ちに、より共感できると思われる。

会話体の文章や、「ぼく」の思いを想像しながら読んでいけるような挿絵など、お話の世界に浸って味わうことにも適している。本単元での学習をきっかけに、動物が登場する本を読み、紹介し合うなど、楽しんで読書をする態度を育てることに適した教材であると考えられる。

- 本単元の指導にあたっては、次のような手立てをとっていききたい。

#### ・子どもを引きつける教材とのあわせ方について

課外、道徳「いきものってかわいいね」の学習で学んだことや、生き物を飼った経験を話し合わせることで、生き物との交流や生き物への思いが膨らむようにさせておく。

#### ・立ち止まりの場の工夫について

「つかむ段階」では、題名と冒頭から読み取った「大すき」「せかいでいちばんすばらしい…」という叙述に着目させ、そう思うようになるまでの「ぼく」とエルフのかかわりを自分の生活経験や読書経験とつないで想像させる。二人のかかわりの深さをつかむことで、いったいこれから「ぼく」はエルフのどんなことを話していくのだろうと意欲的に読み進めていけると考えるからである。

「さぐる段階」では、2つの立ち止まりを設定する。立ち止まり①(年をとったエルフ)では、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と毎晩エルフに話しかける「ぼく」の様子を動作化させていく。動作化させることで、年をとっても、いつまでもエルフを大好きと思っている「ぼく」の気持ちに寄り添うことができる。立ち止まり②(エルフの死後)では、子犬をもらわなかった「ぼく」の気持ちを考えさせる。エルフが気にしないと分かっていたのに、なぜ、子犬をもらわなかったのかとゆさぶる発問をしたり、「ぼく」の気持ちを、エルフに話しかけるような言い方で吹き出しに書かせたりする。エルフが死んだ後も、「ぼく」がどんなにエルフのことを大切に思っているか考えさせるためである。

「まとめる段階」では、「エルフとぼく」と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名を比べさせ、「ぼく」のエルフに対する愛情の深さをとらえさせる。そして、「〇〇〇の『ぼく』へ」と題をつけて「ぼく」へ手紙を書かせることで、「エルフのどんなことを話すのだろう」というめあてで今まで読んできた自分の読みを確かに行うことができる。と考える。

### 3. 単元の目標

- 場面の様子を想像しながら、物語を楽しんで読むことができる。(関心・意欲・態度)
- 挿絵と文章を対応させながら、「ぼく」とエルフがしたことや「ぼく」の気持ちを想像を広げながら読み、「ぼく」が話したかったエルフのことを読み取ることができる。(読む)
- おすすめの本を選び、友達に紹介するために必要な事柄をまとめ、紹介文を書くことができる。(書く)
- 登場人物の行動から想像したことを発表したり、好きな本を友達に紹介したりすることができる。(話す・聞く)

4. 指導計画 (全 11 時間)

□ : ねらい ■ : 手立て

段階	配時	主な学習活動と内容	立ち止まりの場面と教師の支援
<p><b>子どもを引きつける教材とのあわせ方</b></p> <p>○犬のぬいぐるみを見たりさわったりする。</p> <p>○生き物とふれあった経験や飼ってお世話をした経験を出し合い、そのときの気持ちを話し合う。</p> <p>※課外、道徳「いきものってかわいいね」で、上記の学習活動を取り入れ、事前にイメージを膨らませておく。</p>			
つかむ	1	<p>1. 題名と冒頭をつないで、読みのめあてをつくる。</p> <p>(1) 題名「ずうっと、ずっと、大好きだよ」から考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が、誰に言っているのか想像する。</li> <li>・「ずうっと、ずっと」から、どのくらい長いのか考える。</li> <li>・どうして、そんなに長く大好きだと言っているのか想像する。</li> </ul> <p>(2) 挿絵と冒頭から、「ぼく」と犬のかかわりについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵から、「ぼく」と犬(エルフ)が親しげな様子であることをつかむ。</li> <li>・冒頭を読み、ぼくにとってエルフは、「せかいでいちばんすばらしい犬です。」と言えるくらい大好きだったことをつかむ。</li> <li>・大好きと思うまでに、男の子とエルフは一緒にどんなことをしてきたか想像し、話し合う。</li> </ul> <p>(3) 題名と冒頭をつないで、読みのめあてをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大好き」ということと、「エルフのことをはなします。」という叙述をつないで読みのめあてを考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;読みのめあて&gt; 「ぼく」は、エルフのどんなことをはなすのだろう。</p> </div>	<p>○話しかけるような言い方になっていることに気付かせ、誰が、誰に言っているのか疑問をもたせる。</p> <p>○どのくらい長いのか、なぜ、そんなに長く大好きだと言っているのか、想像させる。</p> <p>○絵本から、肩を寄せ合っている男の子(「ぼく」とエルフの挿絵を提示し、両者のかかわりを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>つかむ段階の立ち止まり</p> <p>□「ぼく」とエルフのかかわりについて疑問をもたせ、これからどんなことを話すのか意欲的に読めるようにするため。</p> <p>■動物を飼った経験などを手がかりに、大好きと思うまでに、両者にいろいろなかわりがあったことを想像させ、話し合わせる。</p> </div> <p>○話のあらすじにつながる挿絵を提示し、順に並べさせる。</p> <p>○挿絵を手がかりに、「ぼく」が話したかったことを書くプリントを準備しておく。</p>
	1	<p>2. 全文を読み通し、読みのめあてのこたえを考える。</p> <p>(1) 全文を読み通す。</p> <p>(2) 挿絵を話の順番通りに並べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○エルフの成長 ○年をとったエルフ ○エルフの死</li> <li>○エルフの死後</li> </ul> <p>(3) 挿絵と叙述をつなぎ、「ぼく」が話したかったことを書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼく」が話したかった場面を表す挿絵を選び、話したかったことを予見として書きまとめる。</li> </ul>	

2	<p>3. 各自の予見をもとに、「ぼく」が話したかったことを出し合い、学習計画を立てる。</p> <p>(1) 自分の予見を発表する。</p> <p>(2) みんなが出した予見について話し合い、予見の方向をまとめる。</p> <p style="text-align: center;">＜予見の方向＞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぼくとエルフは、いっしょに大きくなった。まいにち、いっしょにあそんだ。</p> <p>ときがたっけいき、エルフはとしをとって、ぼくはとでもしんばいした。ねるまえには、かならず「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」って、いってやった。</p> <p>あるあさ、エルフがしんでいた。かなしくてたまらなかつたけど、いくらかきもちがらくだつた。まいばん「ずうっと、大すきだよ。」って、いってやっていたからね。</p> <p>いつか、なにをかかって、まいばん、きつといってやるんだ。「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」って。</p> <p>ということをはなしている。</p> </div> <p>(3) 各場面で疑問に思ったことを出し合い、読み確かめていくことをはっきりさせる。</p> <p>(4) みんなでまとめた予見や疑問をもとに、学習計画を立てる。</p> <p>①「ぼく」とエルフが大きくなっていく様子や仲が良かった様子、そのときの「ぼく」の気持ち</p> <p>②エルフが年をとっていくときの様子や「ぼく」の気持ち</p> <p>③エルフが死んでしまったときの様子や「ぼく」の気持ち</p> <p>④エルフが死んでしまった後の様子や「ぼく」の気持ち</p>	<p>○「ぼく」になって書きまとめた内容とそう思ったわけを発表させ、挿絵や叙述と結びつけながら板書し、まとめていく。</p> <p>○疑問に思ったことから、すぐに解決できないことをみんなできちんと読み確かめていく課題として位置付ける。</p>
さ ぐ る	<p>1 4. 「ぼく」とエルフと一緒に大きくなっていく様子や一緒に遊んでいる様子を想像を広げながら読み、その時の「ぼく」の気持ちを考える。</p> <p>(1) 「ぼく」とエルフと一緒にしたことを発表する。</p> <p>(2) 発表した叙述や挿絵をもとに、仲が良かった様子について想像したことを話し合う。</p> <p>(3) 「ぼく」がエルフのことをどんなに大好きだったか、「ぼく」の気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のエルフへの気持ちを話し合う。</li> <li>・「ぼくの犬だったんだ。」という叙述について考え、「ぼく」のエルフへの気持ちを話し合う。</li> </ul> <p>(4) 読み確かめたことを、お家の人へのお手紙に書く。</p> <p>1 ハ 本 時 V</p> <p>5. エルフが年をとっていくときの様子を想像を広げながら読み、その時の「ぼく」の気持ちを考える。</p> <p>(1) 年老いていくエルフを心配する「ぼく」の様子や気持ちを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年老いていくエルフの様子を話し合う。</li> <li>・「とでもしんばいした」「しんばいした」を比べて、「ぼく」の気持ちを考える。</li> <li>・何を「とでもしんばいした」のか考える。</li> </ul>	<p>○「いっしょに…」という言葉を手がかりに考えさせる。</p> <p>○どんな夢を見たか、どんなことをして遊んだかを想像させ、仲の良かった様子をつかませる。</p> <p>○「エルフは、ぼくの犬…」という叙述に着目させ、家族の中でも、「ぼく」とエルフのかかわりがとりわけ深かったことに気付かせる。</p> <p>○挿絵とつないで考えさせる。</p> <p>○動物の方が年をとっていきるのが早いことに気付かせる。</p> <p>○「できることはなにもなかった」「としをとったんだよ」の叙述から考えさせる。</p>

1

(2) エルフが年をとっても、「ぼく」はエルフのことが大好きだったのか考え、話し合う。

- ・エルフを抱いて階段を上る「ぼく」の気持ちを考える。
- ・なぜ「ぼく」が「エルフは、ぼくのへやでねなくちゃいけないんだ。」というのか考える。

(3) 「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と、エルフが年老いてから言い始めたのはなぜか考える。

- ・「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と、なぜ言うのか考える。
- ・動作化して、「ぼく」の気持ちを考える。

(4) 読み確かめたことを、お家の人へのお手紙に書く。

6. エルフが死んでしまったときの様子を想像を広げながら読み、その時の「ぼく」の気持ちを考える。

- (1) 挿絵をもとに場面の様子をつかむ。
- (2) 挿絵や叙述から想像したことを出し合い、場面の様子を詳しくする。
- (3) なぜ、「ぼく」はいくらか気持ちが楽だったのか考え、「ぼく」の気持ちを話し合う。

(4) 読み確かめたことを、お家の人へのお手紙に書く。

1  
八  
本  
時  
V

7. エルフが死んでしまった後の様子を想像を広げながら読み、その時の「ぼく」の気持ちを考える。

- (1) 「ぼく」が子犬をいらないと言ったのはなぜか考え、話し合う。
  - ・挿絵から「ぼく」が子犬をいらないと言っている場面であることをつかむ。
  - ・「エルフはきにしないってわかっていたけど」の意味を考える。
  - ・なぜ、いらないと言ったのか、「ぼく」の気持ちを考えて吹き出しに書く。
  - ・「ぼく」の気持ちを話し合う。

○エルフを抱いて階段を上るのは、「ぼく」にとっては楽ではないことに気付かせる。

さぐる段階の立ち止まり

□「ずうっと、」に着目させ、年老いたエルフに、いつまでも大好きだと伝えたい「ぼく」の気持ちを読み取らせるため。

■エルフに「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と言うときの「ぼく」の動作化をさせ、「ずうっと、」の意味を考えさせる。

○エルフが死んで、家族みんなが悲しんでいる場面であることをつかませる。

○家族の様子、「ぼく」の様子に分けて考えさせる。

○大好きだという自分の気持ちを、いつもエルフに伝えていたことで、エルフは死んでここにいないけれど、エルフの心に自分の気持ちはきっと伝わっていると思う「ぼく」の思いをとらえさせる。

さぐる段階の立ち止まり

□「ぼく」が、どんなにかエルフのことを大好きだったか考えさせるため。

■エルフは気にしないのに、なぜ、それでも子犬をもらわなかったのか、子どもの考えをゆさぶる発問をする。

■考えた「ぼく」の気持ちを、エルフに話しかけるような言い方で、吹き出しに書かせる。

		<p>(2) 「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」と、誰に、なぜ、まいばん、きつと言ってやるのか考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に言っているのか話し合う。</li> <li>・どうして、まいばん、きつと言ってやるのか話し合う。</li> </ul> <p>(3) 読み確かめたことを、お家の人へのお手紙に書く。</p>	<p>○これから飼う他の動物という考えも認めていく。</p> <p>○エルフが死んだあとも、エルフが大好きで大切に思っていることをつかませる。</p>
まとめ	1 ∧ 本 時 ∨	<p>8. 読み確かめたことを振り返り、読みのまとめをする。</p> <p>(1) 「ぼく」はエルフのどんなことを話したかったのか、読み確かめたことを振り返る。</p> <p>(2) 題名について考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物を確認する。</li> <li>・「エルフとぼく」という題名と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名を比べる。</li> </ul> <p>(3) 自分が「ぼく」に伝えたいことを、「ぼく」への手紙に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙の題「○○○の『ぼく』へ」の○○○にどんな言葉を入れたらよいか考える。</li> <li>・自分のことを振り返って、自分で考えた題で手紙を書く。</li> </ul> <p>(4) 「ぼく」への手紙を発表し、本時のまとめをする。</p>	<p>○今までの学習の掲示物を振り返らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめる段階の立ち止まり</p> <p><input type="checkbox"/> 「ぼく」のエルフに対する愛情の深さを考えさせるため。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「エルフとぼく」と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名を比べさせる。</p> </div>
	2	<p>9. 学習したことを生かして、人間と動物の心のふれあいについて書いた作品を読み、本の紹介カードを書く。</p> <p>(1) 本を読む。(課外)</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;おすすめの本&gt; 例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「いつでもあえる」 菊田 まりこ</li> <li>・ 「わすれられないおくりもの」 スーザン・バーレイ</li> <li>・ 「どろんこハリー」 ジーン・ジオン</li> <li>・ 「ぼくのいぬはせかいいち」 A・ヴェルボーヴェンなど。</li> </ul> </div> <p>(2) 紹介カードに書く事柄を確認する。</p> <p>(3) 紹介カードを書く。</p> <p>(4) 紹介カードに書いたことをもとに、本の紹介をする。</p>	<p>○人間と動物の心のふれあいについて書いた本を、「先生おすすめの本」として紹介しておく。</p> <p>○教科書の例をもとに、紹介カードに書く事柄を確かめさせる。</p> <p>○紹介カードを交流させることで、発展読書につないでいく。</p>

# 第1学年 本時指導案

「年老いたエルフを心配するぼくの様子や気持ちを読み確かめる場面」(6/11時)

## 5. 本時目標

- 年をとっていくエルフを心配する「ぼく」の様子や気持ちを、想像を広げながら読み取ることができる。 (読む)
- 「ぼく」の様子や気持ちについて、自分なりに考えたことを話し合うことができる。 (話す・聞く)

## 6. 本時学習にあたって

子どもたちは、前時まで、「ぼく」とエルフと一緒に大きくなっていく様子や、一緒に楽しく遊んでいる様子を、挿絵や叙述から想像を広げながら読み取ってきている。そして、悪さをしたエルフを叱っていてもエルフが大好きだった「ぼく」の気持ちを読み取ってきた。

本時は、「ぼく」がしたことやそのわけを考えていくことで、年老いていくエルフを心配し、できるだけの世話をする「ぼく」の様子や気持ちを読み取っていくことをねらっている。

そこで本時では、獣医さんにもできることは何もないほどに年をとったエルフを心配する「ぼく」の気持ちを、言葉をはずして読んだり、「ぼく」のエルフに対する行動とつないで考えさせたり、「エルフ、ずうっと、大好きだよ。」と言う「ぼく」の動作化をさせて考えさせたりする。そうして、死がせまり年老いていくエルフをととても心配し、エルフが大好きな「ぼく」の気持ちを想像させていきたい。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- ① 年老いていくエルフを心配する「ぼく」の様子や気持ちを読み取らせるために、
  - ・ 年老いていくエルフの様子を挿絵や叙述をもとに想像し、エルフの何を心配したのか話し合わせる。
  - ・ 「とてもしんぱいした」と「しんぱいした」を比べて、「ぼく」の気持ちを考えさせる。
- ② エルフが年をとっても「ぼく」はエルフのことが大好きであることを考えさせるために、
  - ・ 重いエルフを抱きかかえてでも「ぼく」の部屋に上げようとする「ぼく」の気持ちを考えさせる。
  - ・ 「エルフは、ぼくのへやでねなくちゃいけないんだ。」という叙述に着目させ、前の場面とつないでなぜか考えさせる。
- ③ エルフが年老いてから、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と言い始めた「ぼく」の様子や気持ちを読み取らせるために、
  - ・ 「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と言う「ぼく」の動作化をさせる。
  - ・ 「ずうっと、」とは、どういう意味か考えさせる。
  - ・ エルフが年老いてから、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と言い始めたのはなぜか考えさせる。

7. 本時の展開

□：ねらい ■：手立て

主な学習活動と内容	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 前時を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時学習を想起する。</li> <li>○学習計画をもとに本時学習のめあてをつかむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて としをとっていくエルフをともしんばいする、「ぼく」のようすやきもちをくわしくよもう。</p> </div> <p>2. 年老いていくエルフを心配する「ぼく」の様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 本時場面前半(P30L5まで)を音読する。</p> <p>(2) 「ぼく」は、エルフの何をとても心配したのか話し合う。</p> <p>※挿絵と、エルフの年老いた様子を表す叙述をつないで考えさせる。</p> <p>※「ともしんばいした」と「しんばいした」を比べて、「ぼく」の気持ちを考えさせる。(言葉をはずして読む)</p> <p>3. エルフが年をとっても、「ぼく」はエルフのことが大好きだったのか考え、話し合う。</p> <p>(1) 本時場面後半を音読する。</p> <p>(2) エルフを抱いて階段を上る「ぼく」の気持ちを考える。</p> <p>※エルフを抱いて階段を上るのは、「ぼく」にとっては楽ではないことに気付かせる。</p> <p>※「エルフは、ぼくのへやでねなくちゃいけないんだ。」という叙述に着目させ、なぜか考えさせる。(前の場面とつないで読む)</p> <p>4. 「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と、エルフが年老いてから言い始めたのはなぜか考え、話し合う。</p> <p>(1) 「ぼく」は、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」となぜ言うのか考える。</p> <p>※動作化をさせて、友達の言い方のいいところに気づかせ、「ぼく」の気持ちを考えさせる。</p> <p>※「ずうっと、」とは、どういう意味か考えさせる。</p> <p>(2) エルフが年老いてから言い始めたのはなぜか話し合う。</p> <p>5. 本時学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合ったことをもとに、年をとっていくエルフをともしんばいする「ぼく」の様子や気持ちをまとめる。</li> <li>○本時で読み確かめたことを、お家の人へのお手紙に書く。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>「ぼく」は、エルフがとしをとってうごけなくなったから、いっしょにあそべないんだ。でも、あそべなくてもエルフといつまでもいっしょだよって、おもっているんだよ。</p> </div>	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時は、「ぼく」とエルフが一緒に遊んで大きくなっていった場面です。</li> <li>○エルフは、年をとっていくんだな。心配する「ぼく」の気持ちを考えるぞ。</li> <li>○挿絵のエルフの顔を見ても、エルフは元気がなくて、きつそうだな。</li> <li>○年をとったら、獣医さんも何もできないのか。もう、いつまでも、生きられないんだね。</li> <li>○「ぼく」はエルフのことが、心配でたまらないんだ。</li> <li>○一緒に遊ばなくたって、いつでも一緒だよ。</li> <li>○どんなにお世話が大変でも、何でもするよ。エルフ、大好きだからね。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>さぐる過程の立ち止まり</p> <p>□「ずうっと、」に着目させ、年老いたエルフに、いつまでも大好きだと伝えたい「ぼく」の気持ちを読み取らせるため。</p> <p>■エルフに「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」と言うときの「ぼく」の動作化をさせ、「ずうっと、」の意味を考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一緒にはいられなくなっても「ぼく」はいつまでもエルフが大好きだと、わかってほしいんだね。</li> </ul>

# 第1学年 本時指導案

「エルフが死んでしまった後のぼくの様子や気持ちを読み確かめる場面」(8/11時)

## 5. 本時目標

- エルフが死んでしまった後の「ぼく」の様子や気持ちを、想像を広げながら読み取ることができる。  
(読む)
- 「ぼく」の様子や気持ちについて、自分なりに考えたことを話し合うことができる。(話す・聞く)

## 6. 本時学習にあたって

子どもたちは、前時まで、「ぼく」やエルフの様子を詳しく読んでいくことで、一緒に成長したエルフへの愛情や、エルフが年をとっても大好きだったこと、エルフが死んだときの悲しみなど、「ぼく」のエルフに対する気持ちを読み取ってきている。

前時では、エルフが死んでしまったときの様子を、家族と「ぼく」に分けて考えさせた。エルフが死んでしまっても悲しいけれど、エルフにいつも大好きだったという思いを伝えていたことで、他の家族より、まだいづかか気持ちが楽だったという「ぼく」の様子を読み取ってきた。

本時は、「ぼく」がしたことやそのわけを考えていくことで、エルフが死んでしまった後もエルフを大切に思い続けている「ぼく」の様子や気持ちを読み取っていくことをねらっている。

そこで本時では、子犬をいらないと言った「ぼく」の気持ちを考えさせたり、「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」という言葉、誰にどんな気持ちで毎晩言ってやるのかを考えさせたりしていくことで、エルフが死んでしまった後もエルフに愛情を注ぎ続けている「ぼく」の気持ちを想像させていきたい。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- ① 「ぼく」がどんなにかエルフのことを大好きだったか読み取らせるために、
  - ・ 挿絵をもとに、子犬をいらないとやっている場面であることや、そのときの「ぼく」の表情をとらえさせる。
  - ・ 「エルフはきにしないってわかっていたけど…」という叙述に着目させ、何を気にしないのか、分かっていたとはどういう意味か、エルフは気にしないのに、なぜ、それでも子犬をもらわなかったのか、子どもの考えをゆさぶる発問をして、「ぼく」の気持ちを考えさせる。
  - ・ 隣の子が子犬をくれると言ったのに、なぜいらないと言ったのか、自分の考えをエルフに語りかけるように、吹き出しに書かせる。
  - ・ 吹き出しに書いたことを、まず、グループで交流させ、どの子も自分の考えを伝えられるようにする。
- ② エルフが死んでしまっても、これからもエルフのことが大好きだという「ぼく」の気持ちを読み取らせるために、
  - ・ 「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」は誰に言っているのか考えさせる。
  - ・ 「まいばん、きっと、いつてやるんだ。」という叙述に着目させ、なぜ、まいばん、きつとやってやるのか、「ぼく」の気持ちを考えさせ、話し合わせる。
  - ・ 読み取ったことを生かし、気持ちをこめて「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」を音読させる。

7. 本時の展開

□ : ねらい ■ : 手立て

主な学習活動と内容（※教師の支援）	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 前時を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時学習を想起する。</li> <li>○学習計画をもとに本時学習のめあてをつかむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて エルフがしんでしまったあとの、「ぼく」のようすやきもちをくわしくよもう。</p> </div> <p>2. 「ぼく」が子犬をいらないと言ったのはなぜか考え、話し合う。</p> <p>(1) 挿絵をもとに場面の様子をつかむ。 ※子犬をいらないと言っている場面であることをつかませる。 ※「ぼく」の顔の表情にも着目させ、「ぼく」の様子をつかませる。 (挿絵を読む)</p> <p>(2) 本時場面前半（34 ページ）を音読する。</p> <p>(3) なぜ、子犬をいらないと言ったのか、「ぼく」の気持ちを考えて、吹き出しに書く。 ※「エルフはきにしないうってわかっていただけ…」という叙述に着目させる。</p> <p>(4) 子犬をいらないと言ったときの「ぼく」の気持ちを話し合う。 ※吹き出しに書いたことを、グループで交流させる。 ※全体で、「ぼく」の気持ちを話し合う。</p> <p>3. 「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」と、誰に、なぜ、まいばん、きつと言ってやるのか考え、話し合う。</p> <p>(1) 本時場面後半（35 ページ）を音読する。</p> <p>(2) 「いつか」というのは、いつのことなのか考える。 ※今すぐではないということから、「ぼく」がエルフのことをまだ、ずうっと思っていることをとらえさせる。（時を表す言葉を読む）</p> <p>(3) 「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」は、誰に言っているのか話し合う。 ※これから飼う他の動物という考えも認めていく。</p> <p>(4) どうして、まいばん、きつと言ってやるのか話し合う。 ※「まいばん、きつ、いってやるんだ。」という叙述に着目させ、なぜ、まいばん、きつと言ってやるのか、そう言われたエルフの気持ちも想像させながら考えさせる。</p> <p>(5) 読み取ったことを生かし、気持ちをこめて「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」を音読する。</p> <p>4. 本時学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合ったことをもとに、エルフが死んでしまった後の「ぼく」の様子や気持ちをまとめる。</li> <li>○本時で読み確かめたことを、お家の人へのお手紙に書く。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「ぼく」は、しんだあともエルフのことが大すきで、エルフのことをたいせつにおもっているんだよ。だから、まいばん「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」ってエルフにいうてあげているんだよ。</p> </div>	<p>立ち止まりと子どもの姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時は、大好きなエルフが死んでしまって、「ぼく」はとても悲しんだ場面です。</li> <li>○子犬をいらないって言うところだ。</li> <li>○「ぼく」はうれしそうな顔をしていないよ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>さぐる段階の立ち止まり</p> <p>□「ぼく」が、どんなにかエルフのことを大好きだったか考えさせるため。</p> <p>■エルフは気にしなのに、なぜ、それでも子犬をもらわなかったのか、子どもの考えをゆさぶる発問をする。</p> <p>■考えた「ぼく」の気持ちを、エルフに話しかけるような言い方で、吹き出しに書かせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○天国にいるエルフに言うてるんだ。</li> <li>○これから飼う動物じゃないかな。</li> <li>○エルフは言われて、きつ喜んでるよ。エルフが喜ぶから言うてるんだ。</li> <li>○死んでからも、ずっと好きだよ、忘れないよって伝えたいからだ。</li> </ul>

# 第1学年 本時指導案

「読み確かめたことを振り返り、読みのまとめをする場面」(9/11時)

## 5. 本時目標

- 読み確かめたことを振り返り、「ぼく」のエルフに対する愛情の深さを考えることができる。(読む)
- 伝えたいことや読み確かめたことを「ぼく」への手紙に書くことができる。(書く)

## 6. 本時学習にあたって

子どもたちは、前時までには、「ぼく」とエルフと一緒に成長してきた様子や、「ぼく」が年をとったエルフを心配し世話をする様子、エルフが死んだときの様子、エルフの死後の様子を読み取り、「ぼく」のエルフに対する気持ちを考えてきた。

前時では、エルフが死んだ後、隣の子がくれると言った子犬を「ぼく」がいらないと言ったわけや、毎晩、「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」とエルフに言ってやるわけを考え、エルフが死んでしまった後でも、「ぼく」がエルフを大切に思っていることを読み取ってきている。

本時は、読み確かめたことを振り返り、「ぼく」のエルフに対する愛情の深さを考え、「ぼく」への手紙を書く場面である。

そこで本時では、「ぼく」がエルフのどんなことを話したのか読み確かめたことを振り返り、「エルフとぼく」という題名と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名を比較し、「ぼく」が一番言いたかったことは何だったのか考えさせる。そして、「ぼく」のエルフに対する思いなど、これまでに読み取ってきたことをもとに、自分を振り返りながら、「ぼく」に伝えたいことを手紙に書き、自分の読みを確かかなものにするのをねらっている。

そのために、次のような手立てをとりながら学習を展開していく。

- ① これまでに詳しく読み確かめたことや各場面での「ぼく」やエルフの様子を振り返り、「ぼく」がエルフのことを大好きだという気持ちを確かめるために、
  - ・ これまでの学習の掲示物を利用し、読み取ってきたことを確かめさせる。
- ② 「ぼく」のエルフに対する愛情の深さを考えさせるために、
  - ・ 登場人物を確認させる。
  - ・ 「エルフとぼく」という題名を提示し、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名と比べさせ、エルフと「ぼく」が出てくる話なのに、なぜ、「エルフとぼく」という題名ではなく、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名がついたのかという、子どもの考えをゆさぶる発問をする。
  - ・ 冒頭とつなげる。
- ③ 自分が読み確かめたことや伝えたいことを、「ぼく」に語りかけるように手紙に書かせるために、
  - ・ 手紙の題を「〇〇〇の『ぼく』へ」とし、自分が「ぼく」に伝えたい思いを〇〇〇に入れた題を考えさせる。
  - ・ 今までの自分を振り返ったことや、これからの自分について考えたことなど、自分とつないで書かせる。

7. 本時の展開

□：ねらい ■：手立て

主な学習活動と内容（※教師の支援）	立ち止まりと子どもの姿
<p>1. 本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>めあて よみのまとめをして、「ぼく」に手がみをかこう。</p> </div> <p>2. 「ぼく」は、エルフのどんなことを話したのか、読み確かめたことを振り返る。            ※今までの学習の掲示物を振り返らせる。            ※予見を振り返り、「ぼく」が話したことをまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>ぼくとエルフは、いっしょに大きくなった。まい日、いっしょにあそび、いっしょにゆめを見た。ときがたってエルフはとしをとり、ぼくはともしんばいした。ぼくは、ねるまえには、かならず「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」って、いってやった。あるあさ、エルフがしんでいた。かなしくてたまらなかったけど、いくらかきもちがらくだった。まいばん「ずうっと、大すきだよ。」って、いってやっていたからね。いつか、なにをかって、まいばん、きつとエルフにいつてやるんだ。「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」って。ということをはなした。</p> </div> <p>3. 題名について考え、話し合う。</p> <p>(1) 登場人物を確認する。</p> <p>(2) 「エルフとぼく」という題名を提示し、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名と比べる。</p> <p>※エルフと「ぼく」が出てくる話なのに、なぜ、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名がついたのか話し合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼく」が一番言いたいことは、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」ということだから。</li> </ul> <p>※「ぼく」のエルフへの愛情を、冒頭の「エルフは、せかいでいちばんすばらしい犬です。」につなぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で一番素晴らしいと思うくらい、エルフのことが大好きなんだ。</li> </ul> <p>4. 自分が「ぼく」に伝えたいことを、「ぼく」への手紙に書く。</p> <p>(1) 手紙の題「○○○の『ぼく』へ」の○○○にどんな言葉を入れたらよいか考える。</p> <p>※「ぼく」にどんなことを伝えたいか、自分の思いや考えを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぼく」は、エルフのことがずうっと、ずっと、大好きなのだから →エルフのことがずうっと、ずっと、大すきな「ぼく」へ</li> <li>・「ぼく」は、エルフのお世話を優しく、一生懸命したから →エルフにとってもやさしかった「ぼく」へ</li> </ul> <p>(2) 自分のことを振り返って、自分で考えた題で手紙を書く。</p> <p>5. 「ぼく」への手紙を発表し、本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>エルフのことをずうっと、ずっと、大すきな「ぼく」へ            エルフと「ぼく」は、ちいさいときから、ずっといっしょにいたんだね。エルフに、まいばん、「ずうっと、大すきだよ。」っていつてあげたから、エルフはうれしかったとおもうよ。わたしも、うちの犬に「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」って、いつてあげるね。</p> </div>	<p>○今までに学習したことを思い出して手紙を書こう。</p> <p>○「ぼく」とエルフは、ずっと一緒だったよ。</p> <p>○エルフは、「ぼく」の犬だったんだ。</p> <p>○「ぼく」はエルフのことが大好きなんだよ。</p> <p>○「ぼく」はエルフに、毎晩、「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」って、いつてあげるんだよ。</p> <p>○「ぼく」、エルフ、家族            まとめる段階の立ち止まり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>□「ぼく」のエルフに対する愛情の深さを考えさせるため。</p> <p>■「エルフとぼく」と「ずうっと、ずっと、大すきだよ」という題名を比べさせる。</p> </div> <p>○わたしは、エルフと「ぼく」は、いつも一緒にいたから「エルフとなかよしの『ぼく』へ」という題をつけました。</p> <p>○年をとったエルフを優しくお世話した「ぼく」へ手紙を書こう。わたしの家のねこもあんまり動けなくなっているから、わたしがお世話をしてあげていることを「ぼく」に教えたいな。</p> <p>○世界で一番すばらしいエルフと遊べてよかったねって「ぼく」に言いたいな。</p> <p>○友達は、わたしと同じようなことを思っているんだな。</p>

※自分が動物を飼った経験や、本を読んで知った経験を想起させる。

ぼくは、エルフのどんなことをはなすのだろう。

### ずうっとずうっと大すきだよ

？だれが、だれに言ったのかな  
？どのくらい好きなのかな  
？どれくらい長い時間なのかな

ぼく  
つかむまじり

エルフのことをはなします。  
エルフは、せかいでいちばんすばらしい犬です。

ぼくたちは、いっしょに大きくなった。  
ぼくらは、いっしょにゆめをみた。  
でも、エルフは、ぼくの犬だったんだ。  
エルフとぼくは、まい日いっしょにあそんだ。

かぞく

すくおこった。  
でも…エルフのこと、大すきだった。  
すきならすきと、いってやれば  
よかったのに、だれも、いってやら  
なかった。  
いわなくつても、わかるとおもって  
いたんだね。

ぼくは、とてもしんぱいした。

でも、じゅういさんにも、  
かぞくにもはなにもなかった。

エルフは、どんどんふとっていった。  
エルフは、としをとって、ねている  
ことがおおくなり、さんほをいやがる  
ようになった。

エルフは、かいだんも上れなくなった。

でも、エルフは、ぼくのへやでねなくちゃ  
いけないんだ。  
ねるまえには、かならず、

「エルフ、ずうっと大すきだよ。」って、  
いってやった。  
あるあき、

エルフが、しんでいた。

ぼくたちは、エルフをにわにうめた。  
みんなないて、かたをだきあつた。  
にいさんやいもうとも、エルフが  
すきだった。  
でも、すきいってやらなかった

ぼくだって、かなしくてたまらなかつたけど、  
いくらか、きもちがらぐだった。  
だって、まいばんエルフに、  
「ずうっと大すきだよ。」って、  
いってやっていたからね。

子犬

もらっても、エルフはきにしないうってわかっていただけ、  
ぼくはいらないうっていった。  
つかむまじり②

いつか、ぼくも、ほかの犬を……  
なにをかって、まいばん、きうといってやるんだ。

「ずうっとずうっと大すきだよ。」  
って。

[予見の方向]  
ぼくとエルフは、いっしょに大きくなった。  
まい日、いっしょにあそんだ。  
ときがたつていき、エルフはとしをとって、  
ぼくはとてもしんぱいした。ねるまえには、か  
ならず「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」っ  
て、いってやった。  
あるあき、エルフがしんでいた。かなしくて  
たまらなかつたけど、いくらかきもちがらぐだ  
った。まいばん「ずうっと、大すきだよ」って、  
いってやっていたから。  
いつか、なにをかって、まいばん、きうと  
いってやるんだ。「ずうっと、ずうっと、大すき  
だよ。」って。  
ということをはなしている。

○ ○ ○  
ハンス＝ウイヘルム さく・え  
ひまやまたいち やく

○題名を読む。  
だれが、だれにいっ  
たのか  
どのくらい長いのか  
どのくらい好きなの  
か

○似た言葉と比べて読む。  
「ずうっと早く…」  
「ずうっと、ずうっと、大  
すきだよ」

○挿絵と言葉をつないで読  
む。  
「ぼく」とエルフが仲が  
良かった様子

○言葉はずして読む。  
「( )も しんぱいし  
た。」

○前の場面とつないで読  
む。  
「いっしょにゆめをみ  
た。」  
「まい日いっしょにあそ  
んだ。」

○挿絵と言葉をつないで  
読む。  
エルフが死んでしまっ  
たときの様子

○挿絵を読む。  
子犬をいらないといい  
ている「ぼく」の様子  
○時を表す言葉を読む。  
「いつか」

つかむまじり  
・ 題名にもどり、「ぼく」のエルフへの愛情の深さについて考える。  
・ 「ぼく」へのお手紙を書く。